

授業科目 相談援助実習指導Ⅰ

【担当教員名】		対象学年	2	対象学科	社会
松山 茂樹、寺田 貴美代、鈴木 未来、圓山 里子 春木 邦子、宮崎 純子、宮原 イミ子		開講時期	後期	必修・選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【概要・一般目標：G10】 本授業は、3年時前期で行う「相談援助実習Ⅱ」の事前学習として位置付け、配属実習が円滑かつ有効に行われることを意図としている。概要としては、相談援助実習の目的・意義・内容等を正しく理解するとともに、実習意欲の涵養・助長を図るものとする。					
【学習目標・行動目標：SB0】 1. 相談援助実習の意義及び目的等を理解する。 2. 相談援助に共通する援助技術について理解を深める。 3. 相談援助実習の行われる機関・施設等の対象となる利用者について理解を深める。 4. 相談援助実習の行われる機関・施設等の現状と課題について把握するとともに、考察する。 5. 社会人・組織人としての一般的なマナーや基本的な接遇マナーについて習得する。 6. 福祉専門職（社会福祉士）が相談援助に関わる意義について理解する。 7. プライバシーの尊重等、利用者の権利擁護について深く理解する。					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	ガイダンス（授業の進め方、内容と方法、留意事項等）				講義・集団指導
2	社会福祉士と相談援助				講義・集団指導
3	相談援助実習の意義と目的				講義および個人指導
4	相談援助に共通する援助技術				講義および個人指導
5	実習施設等の利用者の理解				講義・集団指導
6	実習施設等の現状と課題 1（相談機関・福祉事務所）				集団指導 実践例を通しての考察
7	実習施設等の現状と課題 2（児童福祉施設）				集団指導 実践例を通しての考察
8	実習施設等の現状と課題 3（社会福祉協議会）				集団指導 実践例を通しての考察
9	実習施設等の現状と課題 4（医療機関等）				集団指導 実践例を通しての考察
10	実習施設等の現状と課題 5（障害福祉施設）				集団指導 実践例を通しての考察
11	実習施設等の現状と課題 6（高齢者福祉施設）				集団指導 実践例を通しての考察
12	社会人としての基本的マナー				集団指導 実践例を通しての考察
13	接遇マナー				集団指導 実践例を通しての考察
14	利用者の権利擁護				講義・集団指導
15	まとめ				
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)					
参考書		五訂 社会福祉実習	中央法規		
その他の資料		現場実習の手引き	新潟医療福祉大学		
【評価方法】 出席状況、レポート等で評価		【履修上の留意点】 3年前期で行う「相談援助実習Ⅱ」の履修には、本授業及び相談援助実習指導Ⅱの履修が前提となるものであること。			